

新型コロナウイルス感染症が変えたもの



沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 産婦人科 佐久本 薫

新型コロナウイルス感染症の拡大はあらゆる方面へ大きな影響を与えている。外出禁止は予想以上に生活の自由を奪っている。毎日の日用品、食料を買うのも控えている。スーパーのレジに並ぶのも間隔をあけている。カートを持つのも何となく気になる。エレベーターは遠慮している。マスクが感染を予防するとは思わないが、エチケットとして外出時はマスクをすることになっている。

自分は定年後も会計年度任用職員、産婦人科医として働かせてもらっている。ありがたいことである。新型コロナウイルスは病院の業務を大きく変えている。最前線に対応してくれている救命救急センターの職員や呼吸器科、感染症科をはじめ多くの職員が大変な勤務を強いられている。病棟業務の見直し再編が行われ、新型コロナウイルス感染症の病棟は拡充され、看護師確保のため、一つの混合病棟は閉鎖となった。手術制限も長期になっている。その中で急性期疾患は受け続けなければならない。救急外来を続けながら、発熱外来を維持することは容易ではない。ゴールデンウィークが近くなりさらに不安が募る。

周産期医療も特殊である。早産や合併症妊婦、胎児・新生児異常などいわゆるハイリスク妊娠は減ることはない。周産期リエゾンチームや琉大附属病院と協議し、新型コロナウイルス感染症疑い妊婦は県立中部病院と琉大病院周産母子センターが中心となって受けることとし、那覇

市立病院などの協力医療施設がそれをバックアップする。県立南部医療センター・こども医療センター、沖縄赤十字病院は主に周産期ハイリスク症例を受けることにした。北部病院、宮古病院、八重山病院は、それぞれ疑い例に対応していただいている。

日常診療も変わるようになった。十名以上で集まる会議やカンファレンスは避けることになった。当直帯の入院例や問題症例のディスカッション、申し送りも必要最小限の人員で議論し、コンピューター上のメール機能を使って全員で共有することにした。外来担当と病棟担当と分けて業務を行い、できるだけ交差しないようにした。保育園が休園となった市町村に在住している女医さんは、もろに影響を受けた。家人と交代で特別休暇を取っている。当直明けの医師は申し送りが終わると速やかに帰宅する。代休も取りやすくなった。時間外勤務は減少している。効率よい勤務を意識している。なかなか進まなかった医師の働き方改革が急速に進むことになったと感じている。

公務員の給与は確保されているが、一般の国民は働くことが制限され、収入が減り、不安な状態であろう。どこまでこのような苦しい状況が続くのか分からないことがさらに不安を大きくしている。自分の専門である周産期医療が維持されるように、母親と赤ちゃんに安心と安全が保証される様に頑張っていきたいと思っている。



2度目のラオス



沖縄赤十字血液センター 久田 友治

最初にラオスを訪れたのは、2013年の3月。ラオスはベトナムやタイに囲まれた、熱帯モンスーン気候の地である。首都はヴィエンチャン、政治はラオス人民革命党による一党独裁体制で、仏教国でもある。

宿泊したゲストハウスは1泊朝食付きで20ドルと安い。清潔な広いベッドとシャワー、水洗トイレが付いていた。滞在期間は幸いなことに暑くなくて、むしろシャワーの湯が少し冷たかった。食事は、カウンターパートのお蔭でラオスの料理を満喫した。世界中の料理が食べられる東京でも、なかなか経験できないと思われる。よく食べたのは、野菜（香草）、麺類、焼飯（写真1）。写真2はヴィエンチャン市内でよく見られた食堂の一つであり、外から丸見なのが特徴か。ラオスのご飯は、もち米（カオ・ニャオ）であり、フランスの植民地であったことから朝食にフランスパンも出てきたし、生春巻きもおいしかった。

2度目のラオス訪問は、同じ年の9月である。ラオス訪問は2度とも観光ではなく、仕事が目的であった。琉球大学は以前から東南アジア諸国との交流があり、特に医学部や附属病院はラ

オスとの結びつきが強く、例えば県立セタティラート病院には、多くの医師、看護師、コメディカルが医療の応援で活躍してきた。私は保健学科の垣花教授が獲得した科学研究費による事業の研究分担者として参加する機会を得た。課題名は、「開発途上国における多施設参加型院内感染対策ネットワークシステムの構築」である。私は附属病院で外科や手術部で働いている頃から、感染対策室の一員としても活動や勉強をさせてもらったので、その経験を基にしてのラオス訪問であった。ラオスの幾つかの病院の感染対策を垣間見ることもできた。技術援助で支援に行っていた琉大病院の臨床検査技師から、グラム染色がされているかを見て来て欲しいと頼まれていた。細菌検査室のシンクは、しっかり



写真1



写真2

と紫色に染まっていた。

2度の訪問では観光もした。ヴィエンチャン市内には、タートルアンという金色に輝く美しい寺院があり(写真3)、仏像が寝ていた(写真4)。また、パリの凱旋門を模したパトゥーサイの Teppen からは、市街の眺めが素晴らしかった。郊外にあるブッダパークには多くの奇妙な仏像などがあった(写真5、6)。夜店で土

産を物色し、お土産にはシルクを買った。

新型コロナについてラオスでは、2月下旬からPCR検査を実施し、3月24日に初めて2名が感染したと発表された。1名はツアーガイドをしており、ヨーロッパからの団体ツアーに同行、もう1名はホテル従業員で、バンコクのセミナーに出席していたと報道されている。ラオスでも早い感染の収束と国民生活の安定を祈りたい。



写真3

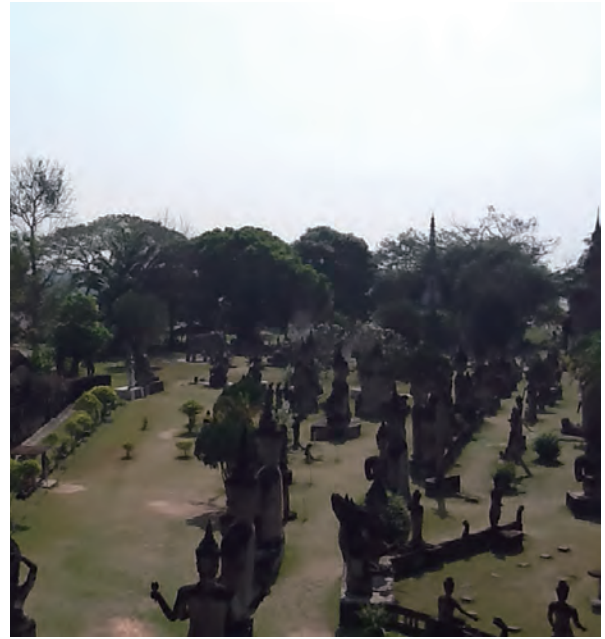


写真5



写真4



写真6

大和上東征伝』(779年)に「阿児奈波(あごなわ:沖縄本島)」と南方諸島が記され、寶貝が中国で、夜光貝が日本で出土し、中国の古銭も沖縄から出土しているのが当時の交易活動は活発だったようです。

琉球人はどこからの由来なのかについては諸説ありますが、幾つかの遺伝学的研究より中国本土や台湾など南方からよりはむしろアイヌ人や日本本土の北方からの人々の移動でほぼ間違いなさそうです。私の関係している先天性代謝異常の希少な常染色体劣性遺伝性疾患の中でムコ多糖症ⅢB型の*NAGLU*遺伝子 p.Arg565Pro 変異や脂肪酸代謝異常症 CACT 欠損症の*SLC25A20* 遺伝子 p.Arg275Gln 変異は沖縄本島で頻度が高く、創始者効果とされ、台湾など近隣では報告ありません。ポンペ病は台湾に多く、新生児マススクリーニングの検査項目となり新生児期からの早期治療により効果をあげている一方、沖縄県では新生児発症のポンペ病はみられていません。台湾は地理的に近いのですが、劣性遺伝性疾患については沖縄本島と発生頻度に差がみられています。この二つの疾患については日本本島の発生頻度も異なるので琉球諸島に移動し定着した後となります。創始者効果とは「元になる個体群の遺伝的多様性の小さな一部だけが引き継がれる効果」であり、それに加えてボトルネック効果(ある集団の個体数が激減することにより遺伝的浮動が促進され遺伝子頻度は元と異なるが均一性の高い集団になる)を想定させるような人口減少を伴う時代があったのではないかと調べると1600年代初め人口約10万人、1700年代中頃約20万人、1800年代初期は台風や干ばつなど飢饉の流行により約15万人に減少、明治時代～大正時代はサツマイモのみの農業依存で天候被害に左右されつつ人口約35万人、1920年～1940年人口約57万人、1945年(終戦時)推定人口32万人となっており、歴史的記録のない時代も考慮し、地理学的に人口数は天候や疫病による影響を強く受けやすく、ボトルネック効果を起こ

しやすい状況であったと思われます。

以前から疑問であった、「琉球王朝時代には華やかな首里城があり、庶民には寺子屋のような教育システムがあったのだろうか、明治時代に識字率が低かったことからやはりなかったのではないか」についてこの際調べてみました。琉球王朝時代の教育機関が官吏養成機関のみで庶民は教育を受けられず、沖縄の貧困とそれに伴う若年労働の必要性があった(阿波根1977年)という記載から沖縄にはやはり寺子屋のような庶民の教育機関はなかったようです。また、琉球王朝は一般民衆による土地の私有を認めず、農業生産性の低い土地であったにもかかわらず極めて高い年貢を課したため、民衆は貧しい生活を強いられていたようです。先島地方など厳しい人頭税は1637年に課されています。琉球処分以降の明治時代において沖縄県に小学校の設置に奮闘するにも関わらず就学率の低さは、庶民は教育を受けないという慣習による教育要求の欠如とされているようですが、一方これら新たに設置した学校を「大和屋」と呼んだ事実(近藤健一郎1993)から、それまでの政治体制に対して様々な思いを想像させられます。沖縄県の近代医療の記載の中で戦前の貧しい家庭の経済状況から進学を断念する生徒が多かったが、1898年日本により設立された台湾総督府医学校が日本人の受け入れ開始した1919年以降において、中学校(沖縄一中、沖縄二中など)を卒業してすぐに受験でき、授業料も本土の1/2以下に抑えられた台湾総督府台北医学専門学校など奨学金など利用して沖縄県から多く進学したこと[1922～1941年:日本人574名中沖縄県出身108名](松田ヒロ子、2013)から庶民の教育要求を満たす社会の構築について考えさせられます。ちなみに琉球大学は連合軍最高司令部の琉球局長による1948年設立ですので戦後の話です。

自由気ままに書いてしまい、また幾人かの報告等を参考にさせて頂きました。拙文を最後まで読んで頂き有り難うございます。

オンライン、遠隔、迫られる対応に前向きに



琉球大学グローバル教育支援機構 保健管理部門 崎間 敦

新型コロナウイルス感染拡大防止の対策として、social distanceを保つことの重要性が示されています。私たちの日頃の業務においても、診療、会議、講義などで人と人が接する機会を極力回避するために、オンラインや遠隔での診療・会議・講義に取り組む必要に迫られています。私は大学に所属していることから、診療に加えて、健康管理、産業保健、講義、学内会議、学会運営などの様々な業務に携わっています。これまで、そのほとんどの業務形態はface-to-face、いわゆるマニュアルで実施してきました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止に求められている危機管理対策のため、大部分の業務をオンライン・遠隔に切り替える取り組み(WebClass、Microsoft Teams、Slack、ZOOMなどの活用)に挑戦しています。浅学で手探りの状況ですが、私たちの取り組みの現状を紹介させていただきます。

1. 対面授業から遠隔授業へ

琉球大学共通教育科目「生活習慣病及び健康増進」を担当しています。これまでの講義スタイルは、ヘルスプロモーション、生活習慣病、禁煙、節酒、感染症予防、熱中症対策、運動処方などについての30分程度の講義(座学)の後に、実習として琉球大学の広大な千原キャンパスの構内ウォーキング、宿題として歩数日記の記載の課題を提供し、期末のペーパーテストを実施していました。今回、完璧に3密をさけてsocial distanceを維持する対面授業の確保が極めて困難であるとの結論に至りました。そこで、対面授業スタイルからWebClassとeメール相談を併用する遠隔授業に舵を切ることにし

ました。実際に準備してみると、WebClassはなかなかどうして、いろんな機能があり感心させられます。オンデマンド講義、ライブチャット機能、テストやレポートの作成など、使いこなせたらよい学びの場を提供できそうです。私の場合は、シラバスで授業方法をアナウンスし、eメール相談、オンデマンド講義、チャット、簡易テストを活用したコミュニケーションの方法で遠隔授業に取り組むために準備を進めています。この原稿を書いている令和2年4月14日にオンデマンド講義に先駆けてeメール相談をスタートしました。相談がゼロかもしれないと気にしていたところ、早速、1件の相談がありほっとしてるところです。講義はまだスタートしておらず、上手くいくかどうかかわからないところはありますが、前向きに進めていきたいと思っています。

2. 学内会議・学会準備

従来は急な会議や会議メンバーの都合があわない場合などでは、eメール会議が主流です。たしかにeメール会議はそれなりに有効なのですが、日々のeメールには様々な内容がどんどん送られてきますので、会議の進捗確認や会議内容を整理整頓する作業をeメールのみで行うのは骨が折れるし、そのことはeメール会議の弱点でもあります。そこで、Microsoft Teamsを導入することになりました。新しいことを導入する前は億劫になるものですが、「エイ！ヤー!!」と始めると、案外とスムーズに事が運びます。釈迦に説法になってしまうかもしれませんが、Teamsでは、業務項目ごとにチャンネルを作成します。Teamsのメンバーは各チャ



ンネルでまとめられた項目の進捗状況、課題、情報をわかりやすく共有することができます。さらに、チャットやテレビ会議の機能も簡単に活用することができます。また、すでに、わかりやすい Teams のマニュアル動画が YouTube に数多くアップされていますので、セッティング時のストレスもかなり軽減されています。

今秋に開催予定の全国規模の学会運営業務を担当させていただいています。その準備においても、遠隔会議が必要になってきたため、Slack を活用しています。前述の Teams と機能がかなり似通っています。Slack を活用することで、メンバーは各項目の進捗状況、課題、情報をわかりやすく共有できます。こちらも、なかなかよいです。

3. 診療

琉球大学保健管理センター、琉球大学附属病院、外勤先病院で外来診療を行っています。今回の新型コロナウイルス感染拡大防止の対策として、希望する患者様へ電話診療を行いました。すべてでオンライン診療とはならない現状

があります。そもそも、診療において、どこまで social distance を保つことが可能なのか、またその必要性はどのレベルまで広げることになるのか、多くの医療従事者と同様に、私も日々悩み、考え、診療を行っています。

4. その他

スマートフォンに ZOOM を取り込み、コミュニケーションをトライしています。先日、ZOOM の脆弱性がネットニュースで飛び交いましたので、現時点においてはプライベートの場面でのみ、ZOOM を活用することにとどめています。ただし、だいぶ使い勝手がよい印象がありますので、脆弱性が克服されたら、会議や講義の場面でも活用してみたいと思っています。

多忙な日常の診療と業務に加えて、急速に拡大する新型コロナウイルス感染症の対策で、すべての医療従事者はリスクを顧みず、県民・国民の命と健康をまもる戦いを続けています。未だ収束の目途が立たない状況ですが、全員の力を合わせて、この難局を乗り越えていきましょう。

原稿募集

プライマリ・ケアコーナー (2,500字程度)

当コーナーでは病診連携、診診連携等に資するため、発熱、下痢、嘔吐の症状等、ミニレクチャー的な内容で他科の先生方にも分かり易い原稿をご執筆いただいております。

奮ってご投稿下さい。

随筆コーナー (2,500字程度)

随時、募集いたします。日常診療のエピソード、青春の思い出、一枚の写真、趣味などのほか、紀行文、特技、書評など、お気軽に御寄稿下さい。

なお、スポーツ同好会や趣味の会(集い)などの自己紹介や、活動状況報告など、歓迎いたします。

原稿送付先

〒901-1105 南風原町字新川218-9 沖縄県医師会広報委員会宛

E-mail: kaihou@ml.okinawa.med.or.jp

※原稿データは、出来ましたらメール送信又は電子媒体での送付をお願い申し上げます。

産業医研修会のご案内

令和2年度 産業医研修会について

令和2年度みだし研修会を別紙により開催することに致しましたので、ご案内申し上げます。

つきましては、研修会への受講を希望する場合には、別紙開催日程をご確認の上、下記により FAX(098-888-0089)でお申し込み下さい。

研修会参加申込票

参加希望の研修アルファベットに○印を付けてください。

申込み研修番号	A	B	C	D	E	F	G	H
	7/29	9/30	8/6	7/15	8/22	9/3	10/7	12/5
参加申込者氏名								
施設名								
TEL								
認定区分	認定医 ・ 未認定医							
有効期限 ※認定医の場合	年 月 日							

※申込後にキャンセルする場合は、お早めにご連絡くださいますようお願い申し上げます。特に実地研修については、定員に達した場合、キャンセル待ちが発生することもございますのでご協力のほどお願い致します。

沖縄県医師会事務局 業務1課
(TEL.098-888-0087 FAX.098-888-0089)

令和2年度沖縄県医師会産業医研修会

No	研修会名	日時	場所	カリキュラム (付与単位数)	講師名	講師所属	研修テーマ
A	基礎研修 (前期) 未認定医 対象 ※4月分振替	7月29日(水) 18:30～22:30 ※定員40名	沖縄県医師会館 2階会議室2	(1) 総論(2単位) (2) 健康管理(2単位)	(1) 青木一雄 (2) 清水隆裕	(1) 沖縄産業保健総合支 援センター所長 (2) ちばなクリニック健 康管理センター医長・沖 縄産業保健総合支援セン ター産業医学相談員	(1) 産業医活動のABC ～産業医活動のミニマ ム・リクワイアメント～ (2) 産業医に求められる 健康診断の基礎知識
B	基礎研修 (前期) 未認定医 対象 ※5月分振替	9月30日(水) 18:30～22:30 ※定員40名	沖縄県医師会館 2階会議室2	(1) 作業環境管理 (2単位) (2) メンタルヘルス 対策(2単位)	(1) 清水隆裕 (2) 山本和儀	(1) ちばなクリニック健 康管理センター医長・沖 縄産業保健総合支援セン ター産業医学相談員 (2) 山本クリニック院 長・沖縄産業保健総合支 援センターメンタルヘル ス相談員	(1) "KY"な作業環境管理 (2) 職場のメンタルヘル ス活動入門
C	基礎 (後期) 生涯 (専門・更新) ※6月分振替	8月6日(木) 18:30～22:30 ※定員40名	沖縄県医師会館 3階ホール	(1) 総論(2単位) (2) 労働衛生関係法 規と関係通達の 改正(2単位)	(1) 青木一雄 (2) 清水隆裕	(1) 沖縄産業保健総合支 援センター所長 (2) ちばなクリニック健 康管理センター医長・沖 縄産業保健総合支援セン ター産業医学相談員	(1) 産業医活動の原点～ 職場巡視、安全衛生委員 会、健康に関するアドバ イスと面接指導など～ (2) 改正健康増進法と職 場の受動喫煙対策
D	基礎 (実地) 生涯 (実地)	7月15日(水) 18:30～21:30 ※定員40名	沖縄県医師会館 3階ホール	(1) メンタルヘルス 対策(3単位)	(1) 山本和儀	(1) 山本クリニック院長・ 沖縄産業保健総合支援セ ンターメンタルヘルス相 談員	ストレスチェックを活用 した職場の環境改善
E	基礎 (後期) 生涯 (専門)	8月22日(土) 18:30～22:30 ※定員40名	沖縄県医師会館 3階ホール	(1) 健康管理(2単位) (2) 健康保持増進 (2単位)	(1) 青木一雄 (2) 清水隆裕	(1) 沖縄産業保健総合支 援センター所長 (2) ちばなクリニック健 康管理センター医長・沖 縄産業保健総合支援セン ター産業医学相談員	(1) 産業保健における健 康管理～職場における産 業医の健康管理への関わ り方 (2) 健康診断・保健指導・ 二次健診
F	基礎 (後期) 生涯 (専門)	9月3日(木) 18:30～22:30 ※定員40名	沖縄県医師会館 3階ホール	(1) 作業管理(2単位) (2) 作業環境管理 (2単位)	(1) 青木一雄 (2) 清水隆裕	(1) 沖縄産業保健総合支 援センター所長 (2) ちばなクリニック健 康管理センター医長・沖 縄産業保健総合支援セン ター産業医学相談員	(1) 職場における作業管 理の進め方～過重労働対 策としての長時間労働者 に対する面接指導を中心 に～ (2) ハザードとリスク減 らせない危険をどう考え るか
G	基礎 (後期) 生涯 (更新・専門)	10月7日(水) 18:30～22:30 ※定員40名	沖縄県医師会館 3階ホール	(1) 労働衛生関係法 規と関係通達の 改正(2単位) (2) メンタルヘルス 対策(2単位)	(1) 清水隆裕 (2) 山本和儀	(1) ちばなクリニック健 康管理センター医長・沖 縄産業保健総合支援セン ター産業医学相談員 (2) 山本クリニック院 長・沖縄産業保健総合支 援センターメンタルヘル ス相談員	(1) 労働時間を管理する "残業時間"に注目して (2) 働き方改革時代の職 場のメンタルヘルス活動
H	基礎 (実地) 生涯 (実地)	12月5日(土) 18:30～21:30 ※定員40名	沖縄県医師会館 3階ホール	(1) 作業環境管理・ 作業管理(3単位)	(1) 清水隆裕	(1) ちばなクリニック健 康管理センター医長・沖 縄産業保健総合支援セン ター産業医学相談員	(1) 職場の受動喫煙対策 のすすめ方(実践編)

※単位制の研修につき、時間厳守をお願いします。遅刻や途中退室は単位認定ができませんのでご注意ください。

※上記研修会は日本医師会へ申請中です。場所、研修タイトル等が変更になる場合がありますのでご注意ください。

嘱託産業医活動情報書

沖縄県医師会では、事業場からの産業医紹介依頼に対応するため、産業医としての契約を希望されている先生方の情報を取りまとめたいと考えております。ご協力いただける方は下記事項に記入いただき提出をお願い致します。
 ※事業場との契約内容(報酬等)については、事業主と産業医の相談により決定となります。

申込み日 年 月 日 ()

産業医氏名		診療科目	
医療機関名			
住 所			
電話番号		FAX	
メールアドレス			

嘱託産業医を受託する際のご希望をお聞かせ下さい。

項 目	ご 希 望 条 件
実施可能件数	1件 ・ 2件 ・ 3件 ・ 4件 ・ 5件以上
事業所規模	従業員数 ①50人～99人 ②100人～149人 ③150人以上
業種について	①建設業 ②製造業 ③運送業 ④サービス業 ⑤IT業 ⑥その他 ()
活動希望地区	①北部 ②中部 ③南部 ④那覇市内 ⑤本島全域 ⑥離島可
事業所への訪問、実施曜日 (事業所訪問は基本月1回)	①企業の都合に合わせる ②双方相談のうえ調整
活動可能な曜日・時間 について	① 月 ・ 火 ・ 水 ・ 木 ・ 金 ・ 土 ・ 日 ②第() _____ 曜日 ③希望時間帯 (午前 ・ 午後 ・ _____ 時以降 ・ 特になし)
ストレスチェックの 実施者 に なることについて	① 承諾する ②承諾しない ③要相談
ストレスチェックの 共同実施者 に なることについて	① 承諾する ②承諾しない ③要相談
ストレスチェック後の高ストレス者 に対する面接指導について	① 実施可能 ②実施不可 ③要相談
地区医師会との情報共有	① 許可する ②許可しない

メモ欄

連絡先
 沖縄県医師会 業務1課(久場)
 TEL : 098-888-0087
 FAX : 098-888-0089

講演会・例会のご案内

(7月10日～9月9日)

カリキュラムコード(略称:CC)

医師のプロフェッショナルリズム	1	全身倦怠感	18	けいれん発作	35	胸やけ	52	不安	69
医療倫理:臨床倫理	2	身体機能の低下	19	視力障害、視野狭窄	36	腹痛	53	気分の障害(うつ)	70
医療倫理:研究倫理と生命倫理	3	不眠	20	目の充血	37	便秘異常(下痢、便秘)	54	流・早産および満期産	71
医師-患者関係とコミュニケーション	4	食欲不振	21	聴覚障害	38	肛門・会陰部痛	55	成長・発達の障害	72
心理社会的アプローチ	5	体重減少・るい瘦	22	鼻漏・鼻閉	39	熱傷	56	慢性疾患・複合疾患の管理	73
医療制度と法律	6	体重増加・肥満	23	鼻出血	40	外傷	57	高血圧症	74
医療の質と安全	7	浮腫	24	嘔声	41	褥瘡	58	脂質異常症	75
感染対策	8	リンパ節腫脹	25	胸痛	42	背部痛	59	糖尿病	76
医療情報	9	発疹	26	動悸	43	腰痛	60	骨粗鬆症	77
チーム医療	10	黄疸	27	心肺停止	44	関節痛	61	脳血管障害後遺症	78
予防と保健	11	発熱	28	呼吸困難	45	歩行障害	62	気管支喘息	79
地域医療	12	認知能の障害	29	咳・痰	46	四肢のしびれ	63	在宅医療	80
医療と介護および福祉の連携	13	頭痛	30	誤嚥	47	肉眼的血尿	64	終末期のケア	81
災害医療	14	めまい	31	誤飲	48	排尿障害(尿失禁・排尿困難)	65	生活習慣	82
臨床問題解決のプロセス	15	意識障害	32	嚥下困難	49	乏尿・尿閉	66	相補・代替医療(漢方医療を含む)	83
ショック	16	失神	33	吐血・下血	50	多尿	67	その他	0
急性中毒	17	言語障害	34	嘔気・嘔吐	51	精神科領域の救急	68		

開催日	場所	名称	講師	CC	問合せ先 参加費
07/10 (金) 19:30	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター	第67回CPC(臨床病理検討会)	2年次研修医 Dr.西村和佳乃 1年次研修医 Dr.林啓文、Dr.武田和樹、Dr.福永裕 循環器内科副部長 Dr.宮良高史 病理診断科部長 Dr.仲里巖		沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 臨床研修センター 高良 めぐみ 098-888-0123 (内線 1310、2561) 参加費 なし
07/14 (火) 19:00	沖縄県医師会館	沖縄腎フォーラム定例会 (日)医師生涯教育講座 ①文献紹介・抄読会 ②定例検討会	①未定(未定) ②未定(未定)	①9)0.5単位、 15)0.5単位 ②1)0.5単位、 73)0.5単位	沖縄腎フォーラム 松原 隆 098-851-3077 参加費 なし
07/21 (火) 19:00	国立病院機構 沖縄病院	第171回胸部レントゲン勉強会 (日)医師生涯教育講座 ①症例検討&ディスカッション ②症例検討&ディスカッション	①石垣 昌伸(浦添総合病院) ②普天間 光彦(ハートライフ病院)	①4)0.5単位、 47)0.5単位 ②8)0.5単位、 73)0.5単位	国立病院機構沖縄病院 大湾 勤子 098-898-2121 参加費 なし

※最新の情報はホームページで逐次更新していますので、ご確認ください。

※お願い: 9月10日～11月9日迄の講演会例会等が決まれば、7月22日迄に業務1課(098-888-0087)へご一報下さい。



医師年金

<認可特定保険業者>公益社団法人 日本医師会

ご加入のおすすめ

加入資格 64歳6カ月未満の日本医師会会員 (会員区分は問いません)

☑ 年金検討チェックリスト

- 公的年金では現役時代の生活水準を維持できない
- コツコツ積立てて十分な年金を確保しておきたい
- 一生涯受け取れる年金が望ましい
- 受け取れる年金の額を効率的に増やしたい
- 医師独自のライフスタイルにあった年金がいい
- 加入前に受取年金額のシミュレーションを確認したい

1つでも該当したら...

医師年金ご加入をおすすめします!

医師年金ホームページで、
簡単シミュレーション!

医師年金 検索

<http://www.med.or.jp/nenkin/>

ご希望の受給額や保険料、生年月日を入力するだけで、簡単に受取年金月額のシミュレーションができます。
ぜひお試しください。

個別プランの設計や詳しい資料のご請求はこちら

JMA 公益社団法人
日本医師会 年金・税制課

TEL : 03-3946-2121(代表) / 03-3942-6487(直通)

FAX : 03-3942-6503

受付時間 : 午前9時30分~午後5時(平日)

E-mail : nenkin@po.med.or.jp

保険料からプラン作成

保険料 ●基本：月払 加算：月払 月額保険料 60,000円 加算年金 (10.7%) 月額保険料 12,000円 基本年金 月額保険料 72,000円 合計月払保険料 72,000円	受給年金 ●81コース 加入年数 50年(15年) 年金 月額年金 17,200円 15年受給総額 10,950,000円 ●82コース 加入年数 50年(15年) 年金 月額年金 17,200円 15年受給総額 25,212,000円 ●83コース 加入年数 50年(15年) 年金 月額年金 17,200円 15年受給総額 29,028,000円 ●84コース 加入年数 50年(15年) 年金 月額年金 17,200円 15年受給総額 26,874,000円
--	---

設定条件をご確認ください。

試算日	平成 27年 9月 7日
生年月日	昭和 50年 1月 1日
試算自年数	40歳
加入申込期間	平成 27年 6月 15日
加入申込年月	平成 27年 7月
加入時年齢	40歳 6ヵ月
加算法開始年月	平成 27年 7月
年金受取開始年月	平成 52年 1月
年金受取開始年齢	65歳
払込保険料累計	25,166,000円

注意事項です。お読みください。

- ・加入申込期間は、18日が土日・祝祭日の場合は、その前日となります。
- ・「毎月年金」は、加入者ご本人であれば一生受取継続することが可能です。
- ・「役員特別15年」では、役員者ご本人が65歳到達中に到達しなくなりご本人の場合、15年満りの期間について、ご遺族の方が必ず受け取ることが可能です。
- ・「他府県への転居(引越)等」は、後継者制度に適用ができません。
- ・退職時年齢は、75歳まで延長できます。
- ・「受取年金月額」は概算です。現在は利率1.5%での計算となっております。利率、年金の賦金決定が行われる時は、変更になる場合がございます。

日本医師会が運営する医師のための私的年金

日本医師会 **医師年金**

[トップページへ](#) [サイトマップへ](#)
[個人情報保護方針](#) [重要事項のお知らせ](#)

[医師年金の特長](#)
[医師年金のしくみ](#)
[医師年金シミュレーション](#)
[よくあるご質問](#)
[手続きガイド](#)
[お問い合わせ・資料請求](#)

ホーム → 医師年金シミュレーション

医師年金シミュレーション

[保険料からシミュレーション](#)
[受給年金からシミュレーション](#)

日医ホームページからの場合

1 保険料からシミュレーション
 ご希望の保険料を入力すると、受給する年金額の概算が試算できます。

2 受給年金からシミュレーション
 ご希望する年金額を入力すると、保険料の概算が試算できます。

3 マイページ登録
 お名前、生年月日、メールアドレスで簡単に登録できます。
[※仮申し込み登録までの流れはこちら](#)

4 マイページへログイン
 シミュレーションの結果を最大5件まで保存できます。
 年金の受取開始年齢の延長や、加算保険料増額の際の試算等、詳細なシミュレーションが可能です。

日本医師会 **医師年金** **スマホ・パソコンで簡単手続き**

加入資格は日本医師会会員で64歳6カ月未満の方です
 (申込みは、満64歳3カ月までをお願いします)

アニメーションで仕組みを確認 

シミュレーションで保険料を試算  

一括払専用加入申込書プリントアウトで申込み
 (保険料のお支払いは後日ご案内します)
 ※重要事項説明書をよくお読み下さい(申込書の3、4ページに記載)

お問い合わせ先
 日医年金・税制課 ☎ 03-3942-6487(直) (平日9時半～17時)

生涯教育／プライマリ・ケア

○字数制限

生涯教育 6,000 字以内とし、冒頭に 400 字程度の要旨をつけて下さい。

プライマリ・ケア 2,500 字以内

(図表 1 枚を 400 文字数に換算する必要がある)

○内容

生涯教育は、原則学術・実地医家にとって有用性の高い総説論文

プライマリ・ケアは、病診連携、病病連携等に資していただけるような、日常的な症状に関するミニレクチャー的な内容。

○原稿の書き方

①原稿はできるだけ Word、Excel、PowerPoint にて作成して下さい。

②原則として常用漢字、現代かな使い、算用数字を使用して下さい。

③図、表、写真の挿入場所を文中に指定して下さい。

④図表にはタイトルをつけてください。

⑤写真、図、表は原則として 10 枚以内とし、そのまま製版出来る鮮明なもので、特に写真は明瞭なものでご提出下さい。

⑥人を対象とした研究については、ヘルシンキ宣言を遵守したものであること、また症例を提示する際（症例報告）は、患者さんのプライバシーの保護やインフォームドコンセントなどに関する倫理的な問題に十分配慮されていること。

個人が特定され得る疾病に関しては、本人の同意を得るようご配慮下さい。

○文献

引用文献は最小限度（原則として 10 以内）とし、論文中にでてくる順に番号をつけ、末尾に以下の形式で一括して下さい。本文中には、引用部の右肩に 1) 2) 3) …の番号を付して下さい。引用の図表は出典を明記して下さい。

著者は複数の場合は筆頭者、他で記入下さい。

引用文献の記載項目並びに順序

○雑誌の場合

著者名：論文題名、雑誌名 発行年；巻：ページ。

Ahonkhai VL, et al : Failure of pneumococcal vaccine in children with sickle-cell disease. N Engl J Med 1979 ; 301 : 26-27.

○単行本の場合

著者名：書名、(版数)、発行所、発行所の所在地、発行年；引用ページ。

Koch FC, et al : Practical Methods in Biochemistry. 2nd ed, William Willkins, Baltimore, 1948 ; 212 (or 212-215) .

○シリーズなど

執筆者名：執筆部分題名、編者名、シリーズ名、巻数、発行所、発行地、発行年；引用ページ。

Kovec A : The liver and spleen. ed Bolinger RE, In Guide to Diagnostic Imaging, vol 1, Medical Examination Publishing Co Inc, New York, 1982 ; 123-140.

○ウェブサイトの場合

執筆者名 (編者名)：サイト名、URL (最終閲覧日)

運動器の 10 年・日本協会：学校での運動器検診の手引き。http://www.bjd-jp.org/medicalexamination/guide_0.html (2016 年 8 月 16 日閲覧)

月間 (週間) 行事お知らせ

○字数制限：2,000 字以内

○内 容：医療関係の行事等について

発言席

○字数制限：2,500 字以内

○内 容：会員の先生方のご意見や主張等

勤務医 / 臨床研修医

○字数制限：勤務医 2,000 字以内、臨床研修医 1,500 字以内

○内 容：勤務医・臨床医の先生方からのご意見・ご要望

地区医師会

- 字数制限：1,000 字以内
- 内 容：各地区医師会の活動状況
(例：テレビ番組やラジオ番組の放映、かかりつけ医推進事業等の厚労省モデル事業や独自の院内活動等)

若 手

- 字数制限：1,500 字以内
- 内 容：今後の進路を決める先生方へのアドバイス等について（若手医師への提言、日常診療のコツ、開業顛末記等）

随筆 / 新春干支随筆 / 緑陰随筆

- 字数制限：随筆 2,500 字以内、新春干支随筆・緑陰随筆 1,500 字以内
- 内 容：日常診療のエピソード、青春の思い出、一枚の写真、趣味などの他、紀行文、特技書評、新年の抱負など

本の紹介

- 字数制限：1,500 字以内
- 内 容：感動した、生き方が変わった、診療が変わった、新たに真実を知った本等々、会員の皆様の座右の本の紹介

いきいきグループ紹介

- 字数制限：1,000 字以内
- 内 容：各研究会、スポーツ同好会や摸合等の活動紹介

身近な闘病記

- 字数制限：2,000 字以内
- 内 容：ご自身又はご家族の病気療養の経験談について

追悼文

- 字数制限：1,500 字以内
- 内 容：お亡くなりになられた先生への追悼

広 告

- 沖縄県医師会報の品位、及び体制を損なわぬものとし、採否については広報委員会で審議のうえ決定する。

投稿の方法

1. 会報への投稿の第一執筆者は、原則として沖縄県医師会会員であること。
2. 原稿には題名、氏名、勤務先(所属)を明記して下さい。
3. 図・表・写真は原則モノクロ掲載とし、カラーの場合は実費をご負担願います。
4. 送付方法は出来ましたらメール送信又はCD-R等での送付をお願いします。
5. 同一会員の原稿掲載回数は、1期(4～7月号)、2期(8～11月号)、3期(12～3月号)の各期ごとに1編のみ。
6. 写真の解像度は350以上をお願いします。表紙写真に関しては、会員本人撮影のものとする。
7. 掲載の採否は広報委員会で決定し、内容によっては原稿の修正等をお願いする事があります。

著作権

本誌並びにホームページに掲載される著作物の著作権は沖縄県医師会に帰属します。

送付先・問い合わせ先

沖縄県医師会 庶務課
〒901-1105 南風原町新川 218-9
TEL：098-888-0087 FAX：098-888-0089
E-mail：kaihou@ml.okinawa.med.or.jp

平成 29 年 7 月 1 日より

『立夏』・『小満（しょうまん：スーマン）』・『芒種（ぼうしゅ：ボースー）』も過ぎ、沖縄県では、先日6月12日に早々と梅雨明け（例年なら6月23日：慰霊の日）となりました。またしても「脱水症・熱中症対策」が必要な『夏至』・『小暑』・『大暑』へ突入です。今年は加えて「コロナ対策」も重要課題ですので、例年以上に十分な体調管理（食事・運動・睡眠・ストレス対策・ガジャン対策・うがい・手洗い・咳エチケット etc）しながら“酷暑の夏”を乗り越えてまいりましょう！。

さて、「コロナ騒動」のあおりを受け、多くの会議や講演会が軒並み中止・延期となり、掲載原稿がなかなか集まらず沖縄県医師会報も無念の「2020年6月号・7月号：合併号」になってしまいました。今回はなんとか通常どおりの「表紙写真」・「報告」・「生涯教育」・「インタビューコーナー」・「月間行事」・「随筆」などのご投稿を頂きました。是非ご一読頂きご感想を事務局の方へご一報頂ければ…とっております。

さてさて、ここで「コロナ関連」の横文字系を復習してみましょう！。①「COVID19（Corona Virus Disease 2019：新型コロナウイルス感染症）」、②「PCR（Polymerase Chain Reaction：ポリメラーゼ連鎖反応）」、③「アウトブレイク（Outbreak：突発集団発生）」、④「パンデミック（Pandemic：世界的大流行）」、⑤「オーバーシュート（Overshoot：爆発的患者急増）」、⑥「ロックダウン（Lockdown：都市封鎖・外出禁止令）」、⑦「クラスター（Cluster：群れ・集団・小規模集団発生）」、⑧「ソーシャルディスタンス（Social distance：社会的距離）」、⑨「フィジカルディスタンス（Physical distance：物理的距離）」、⑩「ステイホーム（Stay at home：家庭内自粛）」、⑪「セルフ・アイソレーション（Self-isolation：自己隔離）」、⑫「ノン・エッセンシャル（Non-essential：不要不急）」、⑬「ニュースマートライフ（New smart life：新たな日常）」、⑭「アフターコロナ・ウィズコロナ（After corona・With corona：コロナ共存社会・観光振興と経済の立て直し!）」、⑮『小

生オリジナル』：「4M=3M（密集・密閉・密接）+M（無知の知）～自分の無知を知るべし！

フェイクニュースに惑わされないように！」・「6K=5K（換気・検温・必ずうがい・必ず手洗い・必ず咳エチケット）+K（回避三密）」…。南半球から北半球へ津波のような「セカンドウェーブ（第2波）・サードウェーブ（第3波）」が予想されております。兎にも角にも、『油断大敵』です。

今後の『問題点』として、①「飲食店関係だけではなく、学校・図書館・美術館・動物園などの感染対策！」、②「位置情報追跡アプリの是非！（個人情報管理）」、③「災害時避難所における三密対策！」、④「夜の街関連対策！（会食クラスター）」、⑤「抗体保有者の有無！（集団免疫の有無）」、⑥「コロナ診療！（発熱外来・PCR検体採取センター etc）」、⑦「コロナ治療！（特効薬開発・回復者血液採取 etc）」、⑧「コロナ予防！（フェイスシールド・マウスシールド・ワクチン開発 etc）」、⑨「コロナ廃棄物対策！（小型焼却炉：塵を燃やす“チリメーサー”）」、⑩「コロナ解雇対策！・コロナ自殺対策！（長期的なバックアップ体制）」…。まだまだ、難題山積の現状ではありますが、「自粛から自衛へ！ by 小池百合子氏」、「冷静に！ by 宮里達也氏」、「心配するな！安心するな！ by 作者不詳」を合言葉として、『予断』の許されない現状に『油断』することなく『覚悟』を持って対処する『決断』を…。「新型コロナ」に負けないように、『One Team!』でもう少し頑張ってみましょう！。『コロナ禍（わざわい：社会的影響）』の終息（収束）を願って…。合掌…。

広報委員 照屋 勉

